

会議議事録

会議名	2021年度第1回看護分野教育課程編成委員会
開催日時	2021年7月13日(火) 15:00~17:00
場所	本校7階 研修室
出席者 (敬称略)	① 企業等委員：大沼扶久子(公益社団法人東京都看護協会西部地区理事) 小林映子(社会医療法人河北医療財団河北総合病院看護部長) (計2名) ② 本校委員：橋本正樹(校長)、伊東由美(看護科学科長)、岡本隆行(看護科教員)、 渡邊明子(看護科教員)、前野宣(事務局次長) (計5名) ③ 事務局：安里良美(計1名) (合計8名)
欠席者	なし
配付資料	① 事前送付：□資料1：2020年度第2回看護分野教育課程編成委員会議事録 資料2： 前回委員会以降の主な経過報告 資料3：2021年度授業計画(5・6月) 資料4： ※当日配布 資料5-1：2020年度実習アンケートの課題 資料5-2：実習アンケート 2021 資料6：2022年度生カリキュラム案 資料7：実習計画2024年度
委員長	伊東学科長
議題等	1. 校長挨拶 橋本校長より、ワクチン接種は始まったものの、新型コロナウイルスの感染拡大が予断を許さない状況が続いている。現在は緊急事態宣言下にあるが、本校では対面授業を中心に適宜オンライン授業を織り交ぜながら教育活動を行っている。 これから本校を卒業する学生の多くは、新型コロナウイルスと共存する中で福祉、看護、医療の分野で職業人として活躍することになる。正しい知識と自信を持って仕事に臨んでほしいと思う。 看護師養成分野においても、今後いろいろと判断が難しい問題が続くと思うが、現場の方々と共に協力して、よりよい学生を育てていくために努力していきたい。委員の皆様には、看護の仕事の現在と未来、本校の教育のカリキュラム等についてご提言をいただきたい、との挨拶が行われた。 2. 前回委員会議事録の確認(資料1) 委員長より議事録(案)について諮り、追加、修正がないことが確認された。 3. 前回委員会以降の主な経過報告(資料2)(説明者：伊東学科長、前野事務局次長) 資料2に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明の詳細は別紙のとおり。 4. 2021年度の活動報告 ①2021年度授業と実習について(岡本)(資料3・4) ②実習評価と実習アンケートの一部改正(渡邊)(資料5-1、5-2) 各担当より資料3~5に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明・質疑・意見

の詳細は別紙のとおり。

5. 2022年度の教育活動と学科運営について

①2022年度改正カリキュラム申請について（伊東）（資料6）

②新カリキュラム実習について（渡邊）（資料7）

資料6・7に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明・質疑・意見の詳細は別紙のとおり。

6. 次回日程、その他

・2021年度第2回委員会

①2022年度の教育活動と学科運営の進め方説明

②2022年度入学生カリキュラム案へのご意見伺い 他

次回の日程は、2022年2月8日、15時～17時と決定し、予定している議題は上記①と②であるとの説明が行われ、確認、了承された。

以上

2021 年度第 1 回看護分野教育課程編成委員会の主な討議内容

3. 前回委員会以降の主な経過報告

○伊東学科長より、資料 2 に基づき以下の説明が行われた。

1. 学生の状況関連（2021 年 7 月 1 日時点）

(1)2021 年度・在籍状況

(2)退学の状況

(3)2020 年度・国家試験受験結果

・合格率は 96.4%で、全国平均（95.4%）を上回った。

(4)2021 年度・就職内定の状況

・病院の大小に関係なく、いろいろなところに就職をしている。

(5)2020 年度・就職の状況

(6)学生募集関連

・定員 35 名を目指して募集に取り組んでいく。

（以下、別添 A・B について、前野事務局次長より説明）

4. 2021 年度の活動報告

①2021 年度授業と実習について（資料 3・4）

○岡本教員より、資料 3 に基づき以下の説明が行われた。

- ・学校側の基本方針（全科共通して週 1 回以上のオンライン授業を目指す）、外部講師の意向、学生に不利のない効果的な授業方法等を勘案し、最低週 1 回の量的な課題をクリアするよう調整した。
- ・3 年生は実習期間であったため、実習領域ごとにオンラインをできるだけ活用する形で対応した。
- ・昨年度は外部講師のオンライン授業は見送っていたため 5 月からの実施に向けて急いで対応したが、外部講師のご協力と看護科教職員の努力により何とか対応できた。

○伊東学科長より、学校によっては、ICT を活用して演習もオンラインで取り組もうとしている。本校にとってもその辺は課題である、との発言があった。

○渡邊教員より、資料 4 に基づき以下の説明が行われた。

- ・2021 年度はコロナの影響もあり、2 年生、3 年生ともに学内で代替実習を実施した。
- ・資料に示した基礎看護学実習Ⅲは、看護課程を展開する約 1 週間の実習になる。対象をきちんと設定し、模擬患者さんに協力を得ながら看護を展開した。ペーパーペイシェントでは、反応を捉えることや患者さんとの関係性を築くことが難しいが、模擬患者さんとの対応により、コミュニケーションを図りながら情報を取り、必要な看護を考えるという課題の達成に至った。また、一定の緊張感を持って対象と接することができたことはよかったと思う。
- ・具体的な事例を設定し、ベッドの周囲に患者の人物像を連想できるような環境を整えるなどの工夫をした。
- ・学生の反応としては、対象を大切にしようという意識や、社会背景をつかむことの必要性を感じてもらえたようだ。
- ・グループで一つの事例を展開しているので、責任感、チームで働く意識については不十分に感じた。

②実習評価と実習アンケートの一部改正（資料 5）

○渡邊教員より、資料 5-1、5-2 に基づき以下の説明が行われた。

・学内実習が続いていたので、代替実習、学内実習でも使用できるよう、アンケートの中身に一部注釈を加えるなどの改定を行った。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>今年入った1年生は、例年と比べて気になるところはあるか。</p> <p>学校で、工夫をしながら授業を展開していることが分かってよかった。模擬患者さんを導入する方法は、コロナ禍の前から取られていたのか。</p> <p>実習に入る前に看護過程を学ばせる一つのやり方として継続されるとよいと思った。</p> <p>模擬患者さんは専門でやっているところから来てもらったのか。</p> <p>全然知らない人のほうがリアリティはある。</p> <p>実習のアンケートの結果は、臨床側に戻していただくとうよいと思う。</p>	<p>実習ができていないという前提があったので、6月ぐらいまで、実際に現場に出ながら技術演習を行っている。やりがいを感じたり、厳しい指導も乗り越える力を持っている者もいるが、少し弱い者もいるので、様々かと思う。</p> <p>新人看護職員研修は、ガイドラインに沿って、今年度も変更することなく行っている。逆に昨年度入職した人たちのほうがつまずいている印象。今年度の学生は、コロナ禍の学生と思われたくないという思いで頑張っているので、私たちもしっかり見ていこうとしている。</p> <p>今まではなかった。</p> <p>実際にやってみて、紙面上よりは学びは大きいと思っている。</p> <p>今年卒業した学生より、今の3年生のほうが実習に行けていない。2年生への影響も分からないので、そこは危惧している。</p> <p>実習指導教員が患者になったり、外部から知り合いを連れてくる形だ。</p>

5. 2022年の教育活動と学科運営について

①2022年度改正カリキュラム申請について（資料6）

○伊東学科長より、資料6に基づき以下の説明が行われた。

- ・来年度から新カリキュラムの体制になるので、申請の準備をしている。
- ・単位数は現行の97単位以上から102単位以上となる。（当校改正後109単位）
- ・時間数の縛り（3,000時間以上）はなくなる。（当校改正後3,105時間）
- ・従来の「在宅看護論」が「地域・在宅介護論」となり、4単位から6単位に増える。今後は、地域での生活者に視点を当てた看護が大事になるという考え方が背景にある。
- ・ICTへの対応能力が求められていることから「情報リテラシー」という科目を設けた。
- ・コミュニケーション能力向上のため、「コミュニケーション論」を「人間関係論Ⅰ、Ⅱ」として15時間増やした。Ⅰは授業、Ⅱは演習となる。
- ・専門基礎分野に「臨床放射線医学」を追加した。近年、放射線医学が進歩していることと、国家試験に画像の問題が出ることを考慮した。
- ・基礎看護学の中に「看護倫理」を加えた。従来は「看護概論」や「生命倫理」などで触れていたものを一つの科目とした。
- ・短い臨地実習を補完するため、小児看護学の中に「小児のアセスメントと看護」を加えた。
- ・「臨床看護の実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」とし、今まで授業に加わっていなかった時間を組み込んだ。他の学科と共同して多職種連携を学ぶことも本校の特徴として入れている。
- ・臨地実習は23単位ある。指定規則では最低の17単位でそれにプラスする6単位で各学校の特徴が出る。本校は「地域・在宅看護論実習」を1年生の段階でスタートさせ、具体的には地域包括支援センターで実習することを考えている。
- ・従来の「成人看護実習」と「老年看護実習」を「成人・老年看護実習」とし、8単位にする。

②新カリキュラム実習について（資料7）

○渡邊教員より、資料7に基づき以下の説明が行われた。

- ・資料7は、全ての学年が新カリキュラムで実習をしている2024年度の予定である。
- ・1年生（2024年度生）では、7月第5週で「地域・在宅看護論実習Ⅰ」を行い、次に9月第4週で「対象の理解と療養環境の理解」、翌年1月に「基礎看護学実習Ⅱ」を設けている。
- ・2年生は、7月の「基礎看護学実習Ⅲ」を1単位から2単位に増やし、2週にわたって看護課程を展開する形にしたい。11月の「成人・老年看護学実習Ⅰ」は現行カリキュラムと変わっていない。リハビリ病院とシーダ・ウオークと高齢者体験を織りませながら、加齢に伴う生活への影響を理解させたい。翌年2月は「精神看護学実習Ⅰ・Ⅱ」と「成人・老年看護学実習Ⅱ」が重なるような形になるが、学生の動きは別々になる。「成人・老年看護学実習Ⅱ」は、河北の透析センターで見学を織りませながら実施させていただこうと考えている。
- ・3年生は、名称は変わっているが大きな枠組みは変わっていない。全部2単位で進んでいき、最後に統合実習を行って終わる形になる。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>新カリキュラムで実習時間が短くなるので、受け入れる病院側が今までと同じやり方を求めると危険だと感じた。</p>	<p>実習で何をさせたいかを絞っていかなければいけないと思う。 豊島区は受け入れ体制が整っている。学生</p>

<p>地域から実習が始まるのは非常によいことだと思う。</p> <p>学校の成績はよいが、現場に出ると複数受け持ちや多重課題に適応できなくなる者がいる。その辺はクリアできているのか。</p>	<p>が地域のことを知るのありがたい。</p> <p>本校にも心配な学生は毎年いる。</p> <p>新カリキュラムの軸となる部分に臨床判断能力の育成がある。実習においても、看護師がどう判断していくかを見せたり、導いたりしてもらえると、学生は生の情報として学べるのではないかと思う。</p> <p>1人担当のときにスピードアップできなければ多重課題は無理だと思う。実習の焦点化により全部を担当しなくてよいと考える傾向があるが、ケアの技術や思考の部分、リテラシー（調査・読み取り）のスピードアップの必要性を明確にしないと、学生は気づけない。</p> <p>臨床判断についても、判断の根拠が分らないと応用が効かない。根拠づけの部分は学生時代に時間をかけて取り組み、実習ではそれをスピード感を持ってできるようにしなければならなかった。</p> <p>職業人としての応用力を身につけるためにトレーニングの重要性が確認できた。意外な体験は学びに対する興味につながるので、学生の目を開かせるような工夫がコロナ禍の中でできればよいと感じた</p>
---	---

以上